

# 様々なフィールドで活躍する税関職員

W C O

調和のとれた世界貿易のために



東内 一博

世界税関機構(WCO)関税・貿易局  
テクニカル・アッセイ(大阪税関採用)  
平成21年II種 化学

税関は国境を越える人・貨物がその業務の対象であることから、世界各国が共通認識を有していることがとても重要になります。

私はその国際的な調整の中心的役割を果たしている、ベルギーにある世界税関機構(WCO)で勤務しています。WCOでは世界各国の税関出身の職員が多く勤務しており、日本人も御厨事務総局長をはじめ、10人以上が活躍しています。

私はWCOの関税・貿易局において、「品目表」を担当しています。この品目表はHS(Harmonized System)条約の附属書で、HSコードと呼ばれる約5500の項目を有しており、200以上の国・地域で使用され、国際貿易の98%を超える取引に利用されています。

世界中の全ての物品がHSコードの項目のどれかに分類されます。技術の進歩等による世界貿易の変化に対応し、各国が分類を統一的に適用できるよう、新規物品がどこに分類されるかを締約国が参加する委員会で決定するために提起したり、品目表やその解説書の改正内容の検討を行ったりしています。

これらの議論において、日本税関はHS条約の検討段階から積極的に貢献し、現在でも日本の発言は非常に尊重されています。外から日本の税関を見ることによって、日本の果たしている、また果たさなくてはならない役割を実感することができます。この経験はWCOでの勤務を終えたあとでも私にとって大きな財産になると思います。

税関で採用された際には海外で働くことなど想像すらしていませんでしたが、このように経験を積むうちに思いもしなかった道が拓けることもあります。自分の可能性を試してみたい方は税関を志望してみませんか。



警 察

水際取締りの最前線から最後の砦へ



村田 達也

広島県警察本部 組織犯罪対策部門 警部補  
(神戸税関採用)  
平成18年III種 土木

私は、税關で外国貿易船などの取締りを行う海港取締部門、空港で入国者の手荷物検査を行う旅具検査部門や関税法違反の犯則事件調査を行う検察部門などの勤務を経て、令和3年7月から広島県警察に出向し、薬物事犯を中心とした組織犯罪調査に従事しています。

税關の使命の一つに「安全・安心な社会の実現」がありますが、これは出向先の警察でも当然ながら求められるもので、覚醒剤、大麻といっ

た不正薬物の密輸事件が発生すれば税關、警察が一緒にになって事件捜査を進めていきます。

出向先の警察では、密輸事件の捜査はもとより、税關では扱うことのない国内での薬物犯罪も捜査しており、税關が水際取締りの最前線であるのに対し、警察はその後を任される最後の砦と言っても過言ではありません。

今の私の周りには、数々の修羅場をくぐり抜けてきた捜査員が多数います。新米警察官の私は、捜査手法や刑事手続きの知識などを同僚の捜査員に教わりながら仕事をしており、日々、捜査員としての成長を実感し、やりがいを感じています。また、密輸事件の捜査では税關と警察の橋渡し役として奔走し、国際物流の流れなど警察官では知り得る機会がほとんどない専門分野については、私が税關で培った知識・経験を活かすことにより警察の捜査へ貢献できているものと思います。

税關の業務は多岐多様であるが故に、様々な出向先ポストがあります。私の場合は警察でしたが、いずれの出向先においても業務の専門性を高めていくことができ、税關職員としてのスキルアップに必ずつながります。

是非、出向制度も充実した税關で「安全・安心な社会の実現」に向かと一緒に仕事をしてみませんか。



経済産業省

国際的な安全・安心な社会の実現



米澤 武

経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易検査官室  
安全保障貿易検査官(東京税関採用)  
平成21年一般職(大卒程度)行政

皆さんは税關の3つの使命をご存じでしょうか。3つの使命からは「輸入」のことばかりがイメージされるかもしれません。実は「輸出」も使命を果たすためには欠かせない重要な要素となっています。

私がここ経済産業省で担当している業務は輸入ではなく、輸出に関することです。武器や兵器、軍事転用されるおそれのある貨物や技術を、テロリスト等、国際的な平和を脅かすおそれのある者に渡さないこ

とを目的とする業務を行っています。具体的には、一定のスペックを有する機微な貨物を輸出する場合には経済産業大臣の許可制とし、機微な貨物といえなくとも、大量破壊兵器(核兵器など)等の開発等に用いられるおそれがある場合であれば、同じく許可を得なければ輸出できないとするものです。

私は税關とのパイプ役として、税關からの照会対応、情報交換及び説明会などを行い、不正輸出防止のために税關との緊密な連携を図るほか、違反した輸出者に対する再発防止に向けた審査・指導などを行い、輸出者の理解が高まるよう努めています。また、企業における外國為替及び外國貿易法(通称「外為法」)の普及・啓発や、外為法を遵守するための管理規程を企業が作るお手伝いもしています。

しかし、貨物の輸出についても、最後に水際を守るのはやはり税關になります。外為法の普及・啓発に努め、違反企業に対する罰則を設けても、故意または過失により法を犯す者はたくさんいます。物流の最後の段階において、不正な輸出を止めることができるのは税關だけなのです。税關の1つ目の使命に、日本も含む「国際的な」安全・安心な社会の実現と明記される日も近いと、私は確信しております。



NACCS

日本を代表する総合物流情報プラットフォームとして



稻澤 隆治

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社  
システム企画部総括課係長(神戸税關採用)  
平成22年II種 電気・電子・情報

「NACCS(ナックス)」は、我が国の輸出入(国際物流)に携わる事業者と関係行政機関の間を結び、各種手続きを処理するシステムです。NACCSの運営・管理は、昭和52年から「輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社(通称、NACCSセンター)」が任されており、現在では、日本を代表する総合物流情報プラットフォームとなるまでに発展してきました。税關においてもNACCSの役割は重要で、NACCSによるオンライン

イン処理により税關手続きをより効率的なものとすることで貿易円滑化に貢献するのみならず、情報分析の観点から安全安心な社会の実現にも寄与していますので、日本の国際物流において必要不可欠な存在といえます。

私は、このNACCSセンターにおいて、NACCSの企画・開発業務を担当する部署に所属しています。ここでは特に、現行NACCSの後継システムである第7次NACCSを設計・開発しており、官民双方のシステム利用者と連携しながら、仕様検討等が行われています。現在のNACCSをどう改善していくべきか、未来のNACCSがどう在るべきか等を間近でイメージしながら構築していく、とても魅力のある部署です。私は、出向前に東京税關でシステムの開発・運用業務を担当する部署に所属しており、税關手続きにおけるNACCSの仕様検討も行っていましたので、税關での知識・経験が現在の仕事に十分活かされていると感じます。

NACCSセンターでの勤務は限られた税關職員しか経験できませんが、株式会社(民間企業)で勤務することは非常に貴重な経験であり、税關(行政機関)にいるだけでは分からない多くの「気づき」があります。皆さんもそんな幅広い経験ができる税關で働いてみませんか。

